■今月の特選句

2012 年 6 月号

この先は本人次第道おしえ

青木輝子

「お説教子の将来を案じつつ」「その昔説教されたやうに説く」「子に説教自身の過去は棚にあげ」。あれれ、昆虫の「道をしへ」のことでしたか。

切つ先の触れなん乳房菖蒲の湯

小杉　隆

「俳人が豊胸と詠むＤカップ」ですな。温泉宿のサービスで勝負しようと菖蒲湯を。しかし句の場面設定は混浴だから、願望的空想であろう。

鱶のゐる海とも知らず立泳

宇井偉郎

知らぬが仏と言う奴ですな。「熊の住む山とも知らず苺摘み」。人生は大方そんなもので、見えているようで見えていないものなのである。

妻の字に毒持つこころ罌粟の花

百千草

文字に語源の由来を発見する滑稽句である。「花の字に草が化けたという心」、なんて句もすぐできる。「毒の字に母もひと役恐ろしや」。

時鳥特許許可局亦不許可

永島董玉

早口言葉を句に織り込んで達者な句。しかも不許可という裏切りがよろしい。「許認可は時間がかかる特許庁」「特許待つ早口言葉唱えつつ」。

卒業の回転寿司のごとく授与

柳　紅生

最近は少子化だから、一人ずつ丁寧に手渡されるが、昔は名前を読んでは「以下同文」だった。マンモス校では名前を呼ばれて起立するだけ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

対暑法もっぱら露出頼みとす　横山喜三郎
・・・しまいは紐に近づくビキニ

いつまでも叶わぬこいの多気登り　森　要
・・・成就するのは一途な恋よ

木漏れ日が何より馳走のすみれ草　三橋百笑
・・・だから大きくなれないのだろ

ケチャップでチューリップ描き子どもの日　日根野聖子
・・・誰でも出来る食卓アート

更衣車窓の富士は雲を脱ぎ　高橋素子
・・・美しき山なり色黒なれど

春雨や傘をさしてはコンビニへ　鈴木哲也
・・・同棲時代の思い出ならむ

春衣ストリップめく試着室　壽命秀次
・・・観客不在のひとり芝居か

親族の一同連れて入学す　酒井鹿洋
・・・父母のふたりに祖父母が四人

色艶の話はづめりなすび漬　奥脇弘久
・・・取り合せならスケベエな句に

落書をしてみたくなる春障子　板倉肱泉
・・・穴のひとつも開けてみようか

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

鯉幟隣に懸想尾がからむ　安藤淑子
・・・鯉の幟が恋の幟に

お隣の獲物分からぬ夜釣りかな　有冨洋二
・・・そのお隣も同じ気持ちさ

細枝に縋りつきをり花蘇枋　青山桂一
・・・縋りつかせる恋の手管も

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

【佳作】　ああ言えばこう言うやからなめくじり　青木輝子
　　泣いてすむ些事にはあらず髪洗う　青木輝子

【佳作】　晩霜やぶさいく野菜贖うて　青山桂一
　　強日ざし蚯蚓焦げをり踏み石に　青山桂一

　　一寸待って蝶々に越されてばかり　秋月裕子
　　花冷に大和まほろば震へをり　秋月裕子
【佳作】　宇宙でも欠かせぬ体操汗の散る　秋月裕子

　　有頂天気分が好きで揚雲雀　麻生やよひ
　　春疾風大の男を圧し戻し　麻生やよひ
【佳作】　散る桜気の緩むごと一斉に　麻生やよひ

　　ががんぼの意地まっすぐに通しけり　足立淑子
　　お口へするり仏壇のさくらんぼ　足立淑子
【佳作】　政界の七不思議見た五月闇　足立淑子

【佳作】　熟年よ衣更えより目方更え　有冨洋二
　　とりあえず買物籠へ胡瓜かな　有冨洋二

　　黄金週間隣りの留守を頼まれる　有吉堅二
【佳作】　揺れるほかすることもなき藤の花　有吉堅二
　　花は見ず人ばかり見て疲れけり　有吉堅二

　　アメンボウ天を蹴ったり丸したり　栗倉健二
　　眉間に血逃げた藪蚊を許すまじ　栗倉健二
【佳作】　童謡を猫に聞かせて梅雨長し　栗倉健二

　　腹は黒判決は白卯月盡　安藤淑子
【佳作】　終の日の想定語らふ卯月雨　安藤淑子

【佳作】　麦飯を健康食と呼ぶ時世　飯塚ひろし
　　飛魚の翼拡げてみて買はず　飯塚ひろし
　　葉桜や色々ありて今独身　飯塚ひろし

　　てのひらの落花はもはや九十歳　井口夏子
　　鶏をととと走らせ春嵐　井口夏子
【佳作】　切り株のまけるものかと芽吹きたり　井口夏子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	オール五の子のママ隆鼻整形す	池田亮二
【佳作】	公園裸像がウインクしたと四月馬鹿	池田亮二
【佳作】	薫風や通り道なる犬の鼻	石川節子
	検査前ノンアルで耐えるビール党	石川節子
	雲の峰不届き者が渦巻きぬ	石川節子
	どの島も浮ゐてゐるなり風五月	板倉肱泉
【佳作】	げんげ田を踏む子走る子乳飲む子	板倉肱泉
	面構はや横綱の蟇	伊地知寛
【佳作】	カーナビの考え込んで電波の日	伊地知寛
	荒梅雨を三日足留め関所跡	伊地知寛
【佳作】	蜃気楼地震学者の千三屋	伊藤浩睦
	春眠を醒ます尿意に明鴉	伊藤浩睦
	飛び立てばどぼんと落ちて長閑けしや	伊藤浩睦
【佳作】	引力に逆らふロケット四月馬鹿	稲沢進一
	風船に未来あり空無限大	稲沢進一
	人間に皮が一枚ひきがへる	稲沢進一
	鶯や鳴きもせず木と戯れる	井野ひろみ
【佳作】	鯉のぼり微風でひもじ泳げずに	井野ひろみ
	目借り時食後の夫に頼みごと	井野ひろみ
	畔道に光を放ち金鳳花	今城夏枝
	椎の花ふるさとの山持ち上げし	今城夏枝
【佳作】	自らを日陰の身としなめくぢり	今城夏枝
	古希すぎて今なお喰えぬ蕗の薹	入江澄泉
	老い仲間健康体操糸柳	入江澄泉
【佳作】	早口の「特許許可局」ホトトギス	入江澄泉
	五月闇顔歪むほど歯の痛み	宇井偉郎
【佳作】	籠枕おれおれ詐欺に起こされる	宇井偉郎
	美少女のくるりと回す春日傘	宇佐美徹郎
【佳作】	満天星の花に由来を尋ねけり	宇佐美徹郎
	今年また妻の手製のちやんちやんこ	宇佐美徹郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	老鶯や泪をためて鳴きにけり	氏家頼一
【佳作】	時の日や見えぬ命に見る時計	氏家頼一
	薫風や以下同文の序二段	氏家頼一
	ユニクロで上下揃へし子供の日	越前春生
	大方は釣師が買ひぬ桜鯛	越前春生
【佳作】	目覚しをデジタルに換へ大朝寝	越前春生
【佳作】	居眠りにおたまじゃくし逃げ音楽堂	大関のどか
	ヴィーナスの衣持ち去る春嵐	大関のどか
	虫辺の文字蠢くやをけら焼く	大関のどか
	業平忌待たずに駅名消え失せる	奥脇弘久
【佳作】	柏餅みそ餡狙ふ老い多し	奥脇弘久
	地に足のつかぬぶらんこ恐怖症	笠　政人
	我からに猿股洗ふ花曇	笠　政人
【佳作】	山笑ふあつけらかんと和合仏	笠　政人
【佳作】	飛花落花生者必滅会者定離	加藤澄子
	向う脛の語源を問はれ子どもの日	加藤澄子
	山笑う重箱抱えゐる稚児も	加藤澄子
	宰相の桜吹雪を厭ひけり	加藤　賢
	犬通る花屑脇に掃き寄せて	加藤　賢
【佳作】	うかうかと抱擁見たり春の闇	加藤　賢
	渋面を変へぬ銅像鳥交る	金澤　健
	競り負けて春二番たるくやしさよ	金澤　健
【佳作】	新社員祝辞の嘘を見逃さず	金澤　健
【佳作】	古稀などは甘しあましと山笑ふ	川島智子
	姥桜にもなれぬまま姥となる	川島智子
	花の王風雨に弱き牡丹かな	川島智子
	ささやかな隣家の庭の青き踏む	久我正明
	うなだれる枝垂れ桜を励ませり	久我正明
【佳作】	坊ちゃんの大好物の桜餅	久我正明
【佳作】	小鳥来る海に散らばる小島にも	工藤泰子
	道標の指が指差す遍路道	工藤泰子
	海光や七里ばかりの島遍路	工藤泰子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	新入生先ずは校歌の特訓から	黒田忠一
【佳作】	軒下に夫婦の絆初燕	黒田忠一
	狛犬の口に花見の団子かな	黒田忠一
【佳作】	一を聞き十を忘るる春傘寿	小杉　隆
	飛蚊症症鳥も数多のこの日頃	小杉　隆
【佳作】	猫の子の器量よしからもらはるる	小林英昭
	半熟になつて出てゐる朧月	小林英昭
	新妻に起こさるるのも春の夢	小林英昭
	食材の旬を知らない子に育つ	齋藤八兵衛
【佳作】	昔ならまだ二三人産めたのに	齋藤八兵衛
	古希すぎてオリンピックにでる男	齋藤八兵衛
	父の日や母の日遠く及ばざる	酒井鹿洋
【佳作】	父兄席あふれんばかり入学す	酒井鹿洋
【佳作】	赴任地へ妻から届く竹婦人	佐藤古城
	女童が立ション覗く花の許	佐藤古城
	九人生み日本の母ぞあつぱつぱ	佐藤古城
	葱坊主坊主といへど生臭し	佐野萬里子
【佳作】	二年生黄色帽子を引き連れる	佐野萬里子
	孕み猫しづしづ路地を横切りて	佐野萬里子
【佳作】	薬喰いふ呪ひを思ひ出し	柴田真一
	鏡見てアチミテホイとねこじやらし	柴田真一
	氷河期よ桜前線逃げてゆく	柴田真一
	夕薄暑想定外の腋の下	下嶋四万歩
【佳作】	つべこべと言はぬがよろし竹夫人	下嶋四万歩
	思はずも鳴かせてしまふ初茄	下嶋四万歩
【佳作】	綴ぢ蓋は破れ鍋が好き花筵	壽命秀次
	春うらら夢に紐解くＴバック	壽命秀次
【佳作】	潜水の泳法違反こいのぼり	白井道義
	がくがくと膝笑はせて山笑ふ	白井道義
	抽斗に休眠通帳春愁ふ	白井道義

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	目残しの筍に惚れている	鈴木和枝
	酒やめた人と桜に来ている	鈴木和枝
	人間が好きか嫌いかみみず鳴く	鈴木和枝
【佳作】	風光り洗たくものは揺れている	鈴木哲也
	ござをひきコンビニのパン腹に入れ	鈴木哲也
	七光他人事だよ蛍の夜	髙田敏男
【佳作】	子沢山目立つ個性や葱坊主	髙田敏男
	猟名残尻尾巻いたる犬強し	髙田敏男
	今風は桃緑白よ柏餅	高橋マキコ
【佳作】	川の上干されるがごと鯉のぼり	高橋マキコ
	山肌に黄緑さして新緑は	高橋マキコ
	同じ鼻並べて連休向い側	高橋　都
【佳作】	骨密度下がってブランコ高く漕ぐ	高橋　都
	痩せぎすの春大根のうらやまし	高橋　都
	羽抜鶏羽抜の鳥を嘲るや	高橋素子
【佳作】	雨の予報の蛙に負ける予報士は	高橋素子
	くり返へしくり返へし飛ぶとび魚よ	田中章子
	蜥蜴出で己の縞にほれぼれし	田中章子
【佳作】	尺取り虫ふと立ち上がり空ながめ	田中章子
【佳作】	逝く春の命の俳句唸るかな	田中　勇
	逝く春や遺跡巡りの時超える	田中　勇
	行く春の踏切待つや一句詠む	田中　勇
	遺影とぞ思ひ撮りしがなんじやもんじや	田中早苗
【佳作】	孫自慢はじまり日向ぼこを抜け	田中早苗
	薔薇の刺生命線の度真中	田中早苗
【佳作】	はらはらや部下の花見の無礼講	種谷良二
	桜蕊降るソバージュに禿頭に	種谷良二
	橋下に群れて集まる花筏	種谷良二
	田鼠化して鶉と為り卵生む	田村米生
【佳作】	鷹化して鳩と為るのは俳句だけ	田村米生
	目借時耳も一緒に借りてくれ	田村米生

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】　亡き父に届かぬ齢こどもの日　飛田正勝
在来線下り駅みな遅桜　飛田正勝
三日目も夏日となりし春惜しむ　飛田正勝

ベランダの洗濯物に走り梅雨　永島董玉
【佳作】　積読の世界全集黴生えて　永島董玉

【佳作】　木を切って用意が出来て植樹祭　西をさむ
ゆく春を伊予の聖子と惜みけり　西をさむ
夏が来てそこいら中がＡＫＢ　西をさむ

鼻ほじる羅漢もゐたり霾晦　原田　曄
活動期の地震のあはいの花見かな　原田　曄
【佳作】　万愚節くじにあたりしこと云はず　原田　曄

獣園の檻に遊ぶ子万愚節　ひがし愛
【佳作】　小手毬や電子辞書では団子鼻　ひがし愛
春嵐師の忌は我の誕生日　ひがし愛

【佳作】　父の日も二十四時間ありますか　彦阪義久
金閣寺時価表示板花は葉に　彦阪義久
シャボン玉赤いストロー命吐く　彦阪義久

【佳作】　かはほりの怪傑Ｚ参上す　久松久子
雨の蚯蚓人滑らせて悪びれず　久松久子
菜殻焼く煙に巻かれ伊賀の山　久松久子

【佳作】　初夏や洗ひざらしの雲ひとつ　日根野聖子
杉か菜か正体不明の杉菜かな　日根野聖子

百合の花百合子と声を掛けたきの　藤岡蒼樹
ブランデー瓶に酔ふ貌の水中花　藤岡蒼樹
【佳作】　青洟の乾き擦るや朝寝覚　藤岡蒼樹

【佳作】　春寒の船の厠の中に居り　藤森荘吉
葉桜や負けるが勝ちにもつてゆく　藤森荘吉
一人してベンチでランチうららかや　藤森荘吉

菖蒲湯の匂ひを纏ひ上りけり　藤原セツ子
【佳作】　桜散る散る気の向くまゝにかな　藤原セツ子
花屑となりても美しき八重桜　藤原セツ子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	気にかかる娘四十や子供の日	前　九疑
	庭石をぐいと持ち上げ筍出	前　九疑
【佳作】	子供らが子を連れて来る子供の日	前　九疑
	東電の鶏冠さえない羽抜鶏	松尾軍治
	むかっ腹立てても春は夏となり	松尾軍治
【佳作】	妻差し歯夫入れ歯の夏来る	松尾軍治
	袖触るる人みな優し花の蔭	丸山紘一
	春風やミサイル慄る日日なりし	丸山紘一
【佳作】	セシウムを除ける術なく山苦笑	丸山紘一
【佳作】	母の日に届く花束質草か	三塚不二
	大口をたたけぬままに鯉のぼり	三塚不二
	深傷を負ひし筍の泥まみれ	三塚不二
	怖がりし兜の部屋も秘密基地	三橋百笑
【佳作】	すかんぽの摘まれもせずにつまらんね	三橋百笑
	ガードマン昼餉は今日も目刺かな	宮森　輝
	道端の菜の花お辞儀をしたりけり	宮森　輝
【佳作】	麗かや歯止めかからぬ浪費癖	宮森　輝
	春眠やすとんと落ちる奈落かな	村上美和
	薔薇の名はチャイコフスキー赤き棘	村上美和
【佳作】	ゴールデンウイーク明けの大あくび	村上美和
【佳作】	新茶汲むじつと動かぬひと滴	百千草
	けふはどこへゆかう波に咲く海月	百千草
	子供の日チャイルドシートの忘れ物	森岡香代子
	降る雨を全て飲み込み山笑ふ	森岡香代子
【佳作】	子供の日原発ゼロになりにけり	森岡香代子
	四月馬鹿要ラン外交鳩ポッポ	森　要
【佳作】	爺婆に大きな声で子供の日	森　要
【佳作】	ココナツとよぶべし小さめの小夏	八木　健
	デジタルは性に合はずと時計草	八木　健
	ほうたるや語源の如く火の垂るる	八木　健
	春の蚊の暗がり憎し耳打てり	八洲忙閑

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	行々子お節介なほど仰々し	八洲忙閑
	初節句泣くな男の子ぞ兜の緒	八洲忙閑
【佳作】	生来の蹴り戻りたる半仙戯	柳　紅生
	網の目をかけスナックのメロン待つ	柳　紅生
	声は終り恋はこれから桜咲く	柳澤京子
【佳作】	又ダジャレ「貴女を愛す」アイスクリーン	柳澤京子
	滝桜描きし画家は友となり	柳澤京子
	手に汲みし水のやさしくなりにけり	山下正純
【佳作】	アクセルの緩み車窓の花見して	山下正純
	気づかれぬ新調めがねじいの春	山下正純
	さくら吹雪を浴びつつ入りぬドライブイン	山本けい子
【佳作】	一時に散る花咲く花目を見張る	山本けい子
	同窓会へ貸切のバス暮の春	山本けい子
	衝動的に山藤へ戻りけり	山本　賜
【佳作】	幸せは左脳で受信聖五月	山本　賜
	噛みしめてこんな味だつた木耳	山本　賜
	右向けど視線は左サングラス	横山喜三郎
【佳作】	人疲れしてどっと散る桜かな	横山喜三郎
	松の芯孫の背伸びてわしゃ縮み	渡辺さだを
	岩葉寒厠の神馬大くしゃみ	渡辺さだを
【佳作】	春炬燵なほ手離せぬ持病もち	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。